

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。  
主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

### 歴史は形を変えて繰り返す! コロナ禍に学ぶ企業経営

# 激動の昭和を生き抜き、戦後の日本経済を築いた 創業者たちの経営の真髄に学ぶ ③



本田宗一郎氏

③

1 「コロナ禍」で先が見えない時代だからこそ昭和を代表する経営者に学ぶ

経営の神様といわれた松下幸之助、世界のソニーを創った井深大、町工場から世界に羽ばたいた本田宗一郎、海賊と呼ばれた出光佐三、洋酒文化を創造した鳥井信治郎。日本を代表する企業を育てた経営者(5人の経営者は明治生まれ)は、なにを考え、どう行動(考働)してきたのか。

2 本田宗一郎(明治39年) 1906年(明治39年) 1991年(平成3年)

本田技研工業(通称・ホンダ)の創業者。「町工場から世界に飛び出した男」  
① 1906年(明治39年)11月17日、本田宗一郎は現在の静岡県浜松市天竜区にあった鍛冶屋の長男として生まれる。  
② 小学校を卒業した1922(大正11年)年4月、15歳の本田は、東京・本郷湯島のオート商会(自動車修理工場)の丁稚小僧になった。これは、現代の感覚での就職とは隔絶した世界である。小僧時代は、食事と寝床わずかな小遣いだけで、給料は出ない。  
③ 6年後の1928年(昭和3年)、21歳の宗一郎は「のれん分け」のかた

中小企業診断士・社会保険労務士・販売士  
**大野実雄氏**



●プロフィール  
(オノ シツオ)  
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

ちで浜松市に支店を設立して独立。宗一郎だけが社長から「のれん分け」を許された。  
④ それからの本田は、若さと才能を思いきり発揮する。修理の腕の良さで評判だっただけでは足りない。後に「浜松のエジソン」と呼ばれる発明家ぶりを存分に見せて、修理工場の域を越えた仕事を次々に創り出していたのだ。  
⑤ 1946年(昭和21年)、浜松市に本田技術研究所(旧)設立。39歳の宗一郎は所長に就任。本田技研工業株式会社を浜松に設立。同社代表取締役就任。資本金100万円、従業員20人でスタート。二輪車の研究を始める。  
⑥ 1949年(昭和24年)のちにホンダの副社長となる藤沢武夫と出会い、

ともにホンダを世界的な大企業に育て上げる。

- ⑦ 1962年(昭和37年、55才)、航空機事業への参入を宣言し、本田航空を設立した。
- ⑧ 1966年(昭和41年、59才)、世界12カ国で争われる2輪車のグランプリで50、125、250、350、500ccの全部門を完全制覇して、世界一の二輪車メーカーの地位を不動のものとした。
- ⑨ 1973年(昭和48年)、66歳の宗一郎は本田技研工業の社長を退き、取締役最高顧問に就任。1983年(昭和58年)76歳で取締役も退き、終身最高顧問となる。
- ⑩ 1989年(平成元年、82歳)アジア人初のアメリカ合衆国の自動車殿堂入りを果たす。

### 3 本田宗一郎の エピソード・名言

- ① 私は若い社員に、相手の人の心を理解する人間になってくれと話す。それが哲学だ。
- ② 自分の力の足りなさを自覚し、知恵や力を貸してくれる他人の存在を知るのもいい経験である。
- ③ 失敗が人間を成長させると、私は考えている。失敗のない人なんて、本当に気の毒に思う。
- ④ 社長なんて偉くも何ともない。課

長、部長、包丁、盲腸と同じだ。要するに命令系統をはっきりさせる記号に過ぎない。  
⑤ 人を動かすことのできる人は、他人の気持ちになれる人である。その代わり、他人の気持ちになれる人というのは自分が悩む。自分が悩んだことのない人は、まず人を動かすことはできない。  
⑥ 日本人は、失敗ということを恐れすぎるようである。どだい、失敗を恐れて何もしないなんて人間は、最低なのである。  
⑦ 一度、真似をすると、永久に真似をしてゆくのである。

4 本田宗一郎は現状の困窮(コロナ禍)をどう言うか? 推測

- ① 我々は、最初から苦しみ方向をとったから、あとは楽になった。真似をして楽をしたものは、その後苦しむことになる。
- ② 新しいこと(コロナ対策)をやれば、必ず、しくじる。腹が立つ。だから、寝る時間、食う時間を削って、何度も何度もやる。
- ③ 成功者は、例え不運な事態(コロナ禍)に見舞われても、この試練を乗り越えたら、必ず成功すると考えている。そして、最後まで諦めなかつた人間が成功しているのである。

### 5 「コロナ前」にはもう戻れない、「コロナ前」には戻らない。

自粛でライフスタイル(生活様式)、働き方(在宅勤務等)の価値観が変わった。  
コロナ前の常識がコロナ後では非常識になることもあり得る。  
例えば、毎日電車で揺られて会社と自宅を往復する、休日に行楽地向かい家族や団体・グループ・友人達と楽しむ…。こんな当たり前が当たり前でなくなる。

### 6 「コロナ前とコロナ自粛中でも「変わらないこと」は…」

- ① 人は誰でもお腹が減る(食欲は常にある) ↓ 空腹をどこで満たすのか?
  - ② お酒が好きな人は毎晩でも飲みたいたい ↓ どこで飲むのか?
  - ③ 家庭(飲食)以外の非日常(飲食)を味わいたい ↓ どこで満たされたいのか?
- 現在のコロナ状況下で「飲食店」を利用してもらうには、経営者にどのような顧客誘引策(工夫や方法)が必要かが問われている。
- 歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(鏡)でもあります。

\* 史実は語説がのびます。本文には異なる説もあつたので、ご了承ください。  
\* 参考文献: 昭和時代年表(生涯)シニア版(昭和時代年表)新編出版(昭和の各編著者たち)日経BP社、本田宗一郎100の言葉(宝島社) \* イラストはイメージです。